令和5年度

岩見沢市教育行政点検評価報告書

岩見沢市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律
第26条第1項の規定により、令和5年度に
おける教育委員会の権限に属する事務の管理
及び執行の状況について点検・評価を実施しま
したので、その結果について報告いたします。

令和6年10月25日

岩見沢市教育委員会

目 次

第1章 岩見沢市教育行政点検評価について

1	点検評価の目的	1
2	点検評価の概要	1
3	学識経験者の知見の活用	1

第2章 教育委員会の会議開催状況

1	教育委員会の会議	2
2	会議の実施状況	2

第3章 各事業の点検評価

1	事業一覧	8
2	各事業の点検評価表	
	学校教育の推進	9
	社会教育の推進	23
	子ども・子育て支援の推進	28

第4章 学識経験を有する方からの改善に向けたご意見

	学校教育の推進	35
	社会教育の推進	36
	子ども・子育て支援の推進	36

資 料

令和5年度教育行政方針

第1章 岩見沢市教育行政点検評価について

1 点検評価の目的

この点検評価は、教育委員会が自らの権限に属する事務を点検・評価し、その結果に関する報告書を議会に提出・公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくという目的で実施しています。

2 点検評価の概要

対象年度は、教育委員会において令和5年度に実施した事務事業としています。

点検・評価を行う各対象事業については、教育行政方針に沿った施策を推進する上で、重点となる事業を選定いたしました。

点検評価の実施にあたっては、各事業における前年度までの課題を踏まえ「令和5年度の達成目標」を定め、「令和5年度の実施状況」について、評価・反省点を整理した上で、「今後の課題・取組の方向性」について検証し、今後の改善に向けた方針を明らかにするとともに、以後の事業運営に反映させることとしました。

なお、令和5年度教育行政方針については、報告書の巻末に掲載いたしました。

3 学識経験者の知見の活用

点検評価を行うにあたっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定により、教育に関して学識経験を有する方の知見を活用することとされています。

このことから教育委員会では、下記の5名の方を岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員に委嘱し、5回の会議を通じて各事業の点検評価内容の説明を行うとともに、各委員から具体的な意見等を頂きながら点検評価を進めました。

なお、検討委員から頂いた改善に向けた意見の主なものについては、報告書の後段に掲載いたしました。

○岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員

- ・山本理人：北海道教育大学教授
- ・大塚浩介：岩見沢市PTA連合会会長
- ・石倉亮子：岩見沢市PTA連合会副会長
- ・岡嘉彦：岩見沢市社会教育委員（議長）
- ・高田良子：岩見沢市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部会 部会長

第2章 教育委員会の会議開催状況

1 教育委員会の会議

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置された合議制の執行機関です。

岩見沢市の教育委員会は、教育長を代表として、4人の教育委員により組織されており、その権限に属する事務を処理させるために事務局を設置し、学校教育や社会教育等に関する事務を一体的に行っています。

教育委員は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関して深い識見を持つ人の中から、市長が議会の同意を得て任命します。教育委員の任期は4年です。

教育委員会の会議には定例会と臨時会があり、定例会は原則として毎月第3水曜日、臨時会は必要に応じて開かれます。会議では、教育行政のあり方、教育関係の各種審議会等の委員の委嘱、各種規則等の制定などが話し合われます。

(1) 開催回数	・定例会	12回
	・臨時会	10回
(2) 審議事項	・議決案件	63件
	・報告案件	19件
	・協議案件	11件

2 会議の実施状況

開催日	付議案件
令和5年4月19日	〔議案〕 第30号 岩見沢市教育委員会個人情報保護に関する法律等施行規則の設定について 第31号 岩見沢市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について 第32号 岩見沢市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について 第33号 岩見沢市立教育研究所運営委員会委員の委嘱について 第34号 岩見沢市社会教育委員の委嘱について 〔報告〕 第5号 教育長の一般経過報告について 第6号 令和5年岩見沢市議会第1回定例会について 〔協議〕 協議4 岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員の選出方法について 協議5 岩見沢市立学校通学区域審議会委員の選出方法について 協議6 岩見沢市教科用図書調査委員会委員の選出方法について

開催日	付議案件
令和5年5月24日	<p>〔議案〕</p> <p>第35号 岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員の委嘱について</p> <p>第36号 岩見沢市立学校教頭人事について</p> <p>第37号 岩見沢市立学校通学区域審議会委員の委嘱について</p> <p>第38号 岩見沢市立学校通学区域審議会に対する諮問について</p> <p>第39号 岩見沢市立学校管理規則の一部改正について</p> <p>第40号 岩見沢市教科用図書調査委員会委員の委嘱について</p> <p>第41号 岩見沢市教科用図書調査委員会に対する諮問について</p> <p>第42号 岩見沢市学校給食運営委員会委員の委嘱について</p> <p>第43号 岩見沢市保育の利用に関する規則及び岩見沢市立栗沢認定こども園条例施行規則の一部改正について</p> <p>第44号 岩見沢市子ども・子育て会議条例等の一部改正について</p> <p>第45号 岩見沢市社会教育委員の委嘱について</p> <p>第46号 令和5年度教育委員会関係補正予算について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第7号 教育長の一般経過報告について</p>
令和5年6月22日	<p>〔議案〕</p> <p>第47号 岩見沢市立学校長人事について</p> <p>第48号 岩見沢市立学校教頭人事について</p> <p>第49号 岩見沢市立学校一般教職員人事について</p> <p>第50号 岩見沢市立図書館協議会委員の委嘱について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第8号 教育長の一般経過報告について</p>
令和5年7月19日	<p>〔議案〕</p> <p>第51号 岩見沢市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について</p> <p>第52号 岩見沢市教科用図書の採択について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第9号 教育長の一般経過報告について</p> <p>第10号 令和5年岩見沢市議会第2回定例会について</p>
令和5年7月25日 (臨時会)	<p>〔議案〕</p> <p>第53号 岩見沢市教育委員会の人事について</p>

開催日	付議案件
令和5年8月9日	〔議案〕 第54号 令和6年度から使用する小学校教科用図書の採択について 第55号 令和5年度教育委員会関係補正予算について 〔報告〕 第11号 教育長の一般経過報告について 〔協議〕 協議7 令和5年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 協議8 岩見沢市文化財保護委員会委員の選出方法について 協議9 岩見沢市民会館運営委員会委員の選出方法について
令和5年8月25日 (臨時会)	〔議案〕 第56号 岩見沢市教育委員会の人事について
令和5年9月20日	〔議案〕 第57号 令和5年度岩見沢市教育振興表彰について 第58号 岩見沢市いじめ防止基本方針の改定について 第59号 岩見沢市文化財保護委員会委員の委嘱について 第60号 岩見沢市民会館運営委員会委員の委嘱について 〔報告〕 第12号 教育長の一般経過報告について
令和5年10月18日	〔議案〕 第61号 令和4年度岩見沢市教育行政点検評価報告書の提出について 第62号 岩見沢市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について 第63号 岩見沢市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について 〔報告〕 第13号 教育長の一般経過報告について 第14号 令和5年岩見沢市議会第3回定例会について
令和5年11月21日 (臨時会)	〔報告〕 第15号 教育長職務代理者の指名について

開催日	付議案件
令和5年11月22日	〔議案〕 第64号 岩見沢スポーツセンター及び岩見沢トレーニングセンターの指定管理者の指定について 第65号 岩見沢市温水プール及び岩見沢市北村プールの指定管理者の指定について 第66号 令和5年度教育委員会関係補正予算について 〔報告〕 第16号 教育長の一般経過報告について
令和5年12月8日 (臨時会)	〔議案〕 第67号 岩見沢市教育委員会の人事について
令和5年12月18日 (臨時会)	〔報告〕 第17号 岩見沢市教育委員会の人事について
令和5年12月20日	〔報告〕 第18号 教育長の一般経過報告について 〔協議〕 協議10 令和6年度教育委員会関係予算見積り状況について 協議11 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について
令和6年1月17日	〔議案〕 第1号 岩見沢市立高等学校職員の昇給及び勤勉手当に係る取扱要綱の一部改正について 〔報告〕 第1号 教育長の一般経過報告について 第2号 令和5年岩見沢市議会第4回定例会について 〔協議〕 協議1 岩見沢市スポーツ推進委員の選出方法について
令和6年2月1日 (臨時会)	〔議案〕 第2号 岩見沢市へき地保育所条例の一部改正について 第3号 令和5年度教育委員会関係補正予算について

開催日	付議案件
令和6年2月15日 (臨時会)	〔議案〕 第4号 令和6年度教育行政方針の設定について 第5号 岩見沢市子ども・子育て会議条例の一部改正について 第6号 岩見沢市北村野球場条例の廃止について 第7号 岩見沢市北村野球場条例施行規則の廃止について 第8号 岩見沢市北村ふるさと学習館条例の廃止について 第9号 岩見沢市北村ふるさと学習館条例施行規則の廃止について
令和6年2月20日 (臨時会)	〔議案〕 第10号 岩見沢市立学校長人事について
令和6年2月21日	〔議案〕 第11号 令和6年度教育委員会関係予算について 第12号 岩見沢市立学校長人事について 第13号 岩見沢市へき地保育所条例施行規則の一部改正について 第14号 令和5年度教育委員会関係補正予算について 〔報告〕 第3号 教育長の一般経過報告について 第4号 岩見沢市立学校通学区域審議会の答申について 〔協議〕 協議2 岩見沢市立小・中学校適正配置計画(後期計画)の策定について 協議3 岩見沢市社会教育委員の選出方法について
令和6年3月1日 (臨時会)	〔議案〕 第15号 岩見沢市立学校教頭人事について 第16号 岩見沢市立学校一般教職員人事について 第17号 岩見沢市立小学校及び中学校通学区域に関する規則の一部改正について
令和6年3月21日	〔議案〕 第18号 岩見沢市立小・中学校適正配置計画(後期計画)の策定について 第19号 岩見沢市スポーツ推進委員の委嘱について 第20号 岩見沢市社会教育委員の委嘱について 〔報告〕 第5号 教育長の一般経過報告について

開催日	付議案件
令和6年3月25日 (臨時会)	<p>〔議案〕</p> <p>第21号 岩見沢市教育委員会の人事について</p> <p>第22号 岩見沢市教育委員会事務局の組織に関する規則の一部改正について</p> <p>第23号 特別の勤務に従事する職員の勤務時間等に関する規程の一部改正について</p> <p>第24号 岩見沢市保育士等人材バンク設置運営要綱及び岩見沢市保育士等確保対策事業補助金交付要綱を廃止する訓令の設定について</p> <p>第25号 岩見沢市放課後児童クラブ運営費補助金交付要綱等を廃止する要綱の設定について</p>

第3章 各事業の点検評価

1 事業一覧

施策番号	教育行政方針の重点施策名	重点施策に関連する事務事業名	担当課	頁番号
A 学校教育の推進				
1	新しい時代に対応できる力の育成	1)教育指導振興事業※	指導室	9・10
		2)学び・心はぐくむ学校活動支援事業※	指導室	
2	豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進	3)学力向上対策事業	指導室	11
		4)教育情報システム化推進事業	学校教育課	
		5)ICT教育推進事業	学校教育課	
3	育ちと学びを支える教育環境の充実	6)教育指導振興事業※	指導室	12・13
		7)小・中学校管理事業	学校教育課	
		8)教育支援センター事業	指導室	
		9)特別支援教育推進事業	指導室	
		10)教育研究所運営事業	指導室	
		11)外国語指導助手活用事業	指導室	
4	信頼と期待に応える開かれた学校づくり	12)小・中学校校舎等管理事業	学校教育課	14・15
		13)教育指導振興事業※	指導室	
5	緑陵高等学校の教育の充実	14)学び・心はぐくむ学校活動支援事業※	指導室	16
		15)学校管理事業	緑陵高等学校	
6	学校給食の充実	16)学校給食共同調理所運営事業	学校給食課	17
B 社会教育の推進				
1	生涯学習の充実	17)市民の学び支援事業	生涯学習推進課	23
2	芸術・文化活動の推進	18)文化のまちづくり事業	文化・スポーツ振興課	24
3	スポーツ活動の推進	19)健康・スポーツ振興事業	文化・スポーツ振興課	25
		20)体育施設管理事業	文化・スポーツ振興課	26
4	図書館運営の充実	21)図書館活動運営事業	図書館	27
		22)ブックスタート事業	図書館	
C 子ども・子育て支援の推進				
1	子ども・子育て支援の充実	23)子ども・子育て支援事業	こども未来課	28・29
		24)あそびの広場運営事業	こども未来課	
		25)栗沢認定こども園運営事業	こども未来課	
		26)保育所入所・幼稚園入所運営事業	こども未来課	
		27)病児保育運営事業	こども未来課	
2	子育て相談体制の充実	28)保育・教育人材確保事業	こども未来課	30・31
		29)子育て総合支援センター事業	こども未来課	
		30)留守家庭児童対策事業	こども未来課	
3	放課後活動の充実	31)児童厚生施設運営事業	こども未来課	32
		32)青少年対策事業	指導室	
4	青少年健全育成の充実	33)青少年育成事業	生涯学習推進課	33
		34)青少年育成事業	生涯学習推進課	

※複数の施策に関連する事業

2 各事業の点検評価表

次頁以降のとおり

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	A-1	担当課	【 指導室 】
教育行政方針の分野・重点施策名	学校教育の推進 新しい時代に対応できる力の育成		
重点施策に関連する事務事業名	1) 教育指導振興事業※ 2) 学び・心はぐくむ学校活動支援事業※ 3) 学力向上対策事業		

目的・概要	
<p>○子どもが自ら未来を切り拓いていく上で必要な資質・能力の育成を図るため、日常授業の改善を中核とする組織的な学校改善に取り組むことを通して、「子どもが輝く岩見沢の教育づくり」を展開する。</p> <p>○質の高い教育を継続的に提供するため、ICTの効果的な活用や地域の教育資源を活用した活動等を支援する。</p>	
令和5年度の達成目標	
<p>○全国学力・学習状況調査正答率～80%</p> <p>○標準学力検査～すべての学校が全国平均以上</p> <p>○日常授業の改善の徹底～「子どもと創る授業」とピア・サポートプログラムの実践</p> <p>○学力向上策や豊かな体験活動の推進等、学校が企画する魅力ある教育活動への支援</p> <p>○学習塾等との連携による学力の向上への支援</p>	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
<p>「主体的・対話的で深い学び」を通した確かな学力の追究を図るために、習得と探究が相互に結びつく「教えて考えさせる授業」の理念を基盤とし、身につけさせたい資質・能力を明確にした「子どもと創る授業」の展開を推進した。</p>	<p>各校の教頭・研修担当者による協議会を4回(R4は2回)開催し、授業改善等について協議を重ねた。</p> <p>全国学力・学習状況調査において、中学校数学科では改善傾向が見られるものの、小学校国語科・算数科及び中学校国語科では下降傾向が見られる。</p>
<p>市全体の全国学力・学習状況調査結果及び調査結果報告書を作成し、市のホームページで公表した。また、各学校は学校日より等で自校の全国学力・学習状況調査や標準学力検査の結果を保護者・地域に数値で公表するとともに改善の方向性等を示した。</p>	<p>全国学力・学習状況調査の結果をうけて検討委員会を開催し、調査結果から読み取れる岩見沢の子どもたちの傾向等を分析し、各学校で取り組むべき6つの具体的な方策を提示して改善に向けた取り組んだ。</p>
<p>学校支援ボランティアを広報、市ホームページ、町内会を通じて募り、学習支援、体力測定補助、環境整備活動、農業体験補助等の活動を行った。</p>	<p>各校が考えた創意ある教育活動について、費用対効果が高く、子どもたちの学びへ向かう力を高める取組や教育的効果の高い取組に配分し、特色ある教育活動を支援した。</p>
<p>ICTの効果的な活用と情報活用に関わる実践力・授業力を高めるため、教員対象のタブレット端末活用についての研修会を実施し、日常の教育活動に直結するよう努めた。また、教育研究所による情報教育部会と学校が連携する部会指定校連動システムを活用し、部会研修や指定校研究などが各学校へ浸透するよう努めた。</p>	<p>年2回、市研究所の情報教育部会員が講師となり研修会を開催し、延べ50名の教員が参加した。「ロイロノート」や生成AIの効果的な活用方法の検討に主眼を置き、演習を通して実践的な学びの場を提供した。</p>
<p>学力向上に係る各種事業を以下のとおり推進した。</p> <p>○学習塾等との連携による「OKスタディ」の実施</p> <p>○ALTを活用した「土曜キッズ英会話」の実施</p> <p>○英語検定の取得を目指す「英検学習会」の実施</p> <p>○囲碁授業の実施</p>	<p>「OKスタディ」と「英検学習会」については、完全オンデマンド化に伴い、前年度比1.5倍の416名、「土曜キッズ英会話」については、前年度の参加者の口コミが広がり、前年度比1.3倍の126名となり、多くの児童生徒に学びの場を提供した。</p>

今後の課題・取組みの方向性

- 「主体的・対話的で深い学び」を通した確かな学力を追究するため、身につける資質・能力を明確にした、子どもの対話により、「教える」べきことを教え、「考えさせる」べきことを考えさせる授業の展開を推進する。
- 全国学力・学習状況調査や標準学力調査結果の分析から、子どもたちの傾向や特徴を把握し指導の改善を図るとともに、「望ましい生活・学習習慣」を育む取組を推進する。
- 1人1台端末を効果的に活用した授業づくり、「英語が使える岩見沢の子ども」の育成、地域の教育資源を活用した教育活動の推進など、新しい時代に対応できる力の育成と学びの機会の提供に努める。

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	A-1	担当課	【 学校教育課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	学校教育の推進 新しい時代に対応できる力の育成		
重点施策に関連する事務事業名	4) 教育情報システム化推進事業 (教育情報化推進環境整備事業) 5) ICT教育推進事業		

目的・概要	
<p>○進展を続ける高度情報通信ネットワーク社会に適応できる人材の育成を図るとともに、多様で高度な市民ニーズに応え、ICT(情報通信技術)を活用した教育活動を展開するため、ICT環境の充実・維持及び情報活用能力の向上を図るなど、教育の情報化を推進する。また、ホームページや教育広報等を活用した教育情報の効果的な提供により市民サービスの向上を図る。</p>	
令和5年度の達成目標	
<p>○学校外での安全、安心なネットワーク環境を整備するためのセキュリティ対策として、持ち帰り端末へのフィルタリングを運用する。 ○教職員のネットワークにおける情報管理能力、危機管理能力向上のための研修を実施する。 ○教育委員会ホームページの適時更新及び内容充実を図るとともに、教育広報を年4回発行するなど、教育情報の積極的かつ細やかな提供を図る。</p>	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
<p>タブレット端末の家庭への持ち帰り環境を整備するにあたり、有害情報を除去するフィルタリングの運用により、学校外での安全・安心な接続環境の構築を図った。</p>	<p>導入したクラウド版の仕組みでは、悪質なサイトに関する情報が日々更新されることから、高い精度で悪質なサイトへのブロックが行われ、安全な接続環境が構築された。</p>
<p>タブレット端末や校務支援システムの導入など、学校におけるICT環境の充実に伴い、情報資産の取扱上のリスク及び対応方法等について、教員、事務職等を対象に情報セキュリティ意識の向上を図る目的でeラーニング形式により情報セキュリティ研修を実施した。 (対象者：490人 受講者：481人 受講率：98%)</p>	<p>eラーニング形式での実施により、多数の職員が本研修に参加した一方、研修内容の見直しなどの意見も寄せられており、研修内容、実施時期等について適宜見直しを行いながら、引き続き情報セキュリティ対策への意識付けを行うことが必要。</p>
<p>学校や教育委員会の行事や情報を広く提供するため、市ホームページにおいて教育関連情報を掲載・更新したほか、年4回にわたり教育広報「いわみぎわの教育」を発刊した。</p>	<p>教育広報により教育に関する情報発信を行った。行事や各部署における取り組みなども紹介した。</p>
今後の課題・取組の方向性	
<p>○国・道、各学校と連携を図りながら令和7年度に予定している児童・生徒用タブレット端末の更新に向けた取組を進める。 ○デジタル教科書を含め、今後多様化するICTを活用した授業展開、家庭での学習機会の提供を推進するため、安全、安心なネットワークへの接続環境を維持するとともに、教職員に対して、情報セキュリティ意識の向上を図るための研修をより効果的に実施できるよう、適宜見直しを行いながら継続していく。 ○令和6年度からは、子育て世代や児童生徒がより情報にアクセスしやすいよう、教育広報誌の作成媒体を紙からデジタルに変更し、デジタルツールを活用しながら教育情報の周知を図る。</p>	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	A-2	担当課	【 指導室 】
教育行政方針の分野・重点施策名	学校教育の推進 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進		
重点施策に関連する事務事業名	6) 教育指導振興事業※		

目的・概要

- 児童生徒一人一人の自尊感情や自己有用感の育成を図るための発達支持的生徒指導を推進する。
- 命を大切に作る心や他人を思いやる心、美しいものや自然に感動する心を育てる教育の充実を図り、豊かな人間性と健やかな体を育成する。

令和5年度の達成目標

- 児童生徒一人一人の自尊感情、自己肯定感の高揚を図る。
- 「特別な教科 道徳」の質的向上を通して、心の教育の充実を図る。
- 地域の教育資源を活用した体験活動や読書活動を通して、豊かな感性や想像力を育む教育の充実を図る。
- 9年間を見通した体力づくりに取り組み、体力の向上や運動の習慣化を図る。

令和5年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

市内全校でピア・サポートプログラムを実践し、児童生徒の「傾聴・受容・共感」による信頼関係の構築、自尊感情や自己有用感の高揚、自己の成長を実感できる学級づくりなどに生かした。また、市内教員による「ピア・サポート研修グループ」を開催し理論の習得及び実践力の向上を図るとともに、その成果を各学校へ普及する取組を行った。	指導室学校教育指導員によるピア・サポート研修グループを年4回実施し、延べ225名の教員が参加した。また、指導員による12校への学校訪問を通じて、各校の実践を支援したことで、発達支持的生徒指導の質的向上が図られた。
--	--

市教育研究所「道徳」指定事業(豊中学校)や大学等から講師を招聘し、示範授業や授業研究、講話を実施するなど、道徳の授業改善、指導内容の充実に向けた取組を展開し、各学校へ普及する取組を行った。	道徳科の授業において、発問の工夫やICTを活用することで、より自分事として捉え深まりのある授業が展開され、授業の質的向上が図られた。また、講師を招聘したことで、理論の習得と実践力の向上が図られた。
--	--

全小中学校3学年分の「hyper-QU(よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート)」を実施・分析したことにより、よりよい学級集団づくりと児童生徒への指導に活かす取組を推進した。	北翔大学の山谷学長からの指導・助言をうけ、より詳細な分析ができた。今後はQUの2回分の予算を確保するとともにデジタル版を活用することで、より早く指導に活かせる環境を整えたい。
---	---

市全体の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果及び調査結果報告書を作成し、市のホームページに公表した。また、各学校は学校だより等で、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を保護者・地域に数値で公表するとともに改善の方向性等を示した。	全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から読み取れる岩見沢の子どもたちの傾向等を分析し、各学校で取り組むべき5つの具体的な方策を提示して改善に向けて取り組んだ。
--	--

体力向上に向けた授業改善を積極的に進めるため、北海道教育庁空知教育局の指導主事による学校教育指導や教育大学岩見沢校の教授等による体育科、保健体育科の授業への指導・助言、体育専科教員加配事業の成果の普及などに努めた。	北海道教育大学岩見沢校と連携した出前・協力授業を延べ28校で実施し1,191名の児童生徒が指導を受けた。また、体育専科教員等の専門性の高い授業を通して、教員の指導力向上にもつながった。
---	--

今後の課題・取組みの方向性

- 市内全校でピア・サポートプログラムを実施するとともに、外部講師を招聘することで、包括的生徒指導の理論と実践を徹底的に習得し、支持的・親和的な人間関係や信頼関係に基づく学習集団づくりの強化を図る。
- hyper-QUの調査・分析に加え、一人一人の子どもの学校適応感を客観的に把握するための「アセス」を実施することで、より多面的な視点で個に応じた支援を行う。
- 1校1実践など、体力向上に向けた取組を徹底するとともに、小学校における体育専科教員による巡回指導や、教育大学岩見沢校との効果的な連携の推進を図る。

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	A-3	担当課	【 学校教育課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実		
重点施策に関連する事務事業名	7) 小・中学校管理事業		

目的・概要	
<p>○令和3年度に策定した「岩見沢市立学校における働き方改革行動計画(第2期)」に基づき、教育の質の向上を図るために、教員の働き方改革を進める。</p> <p>○スポーツ庁及び文化庁が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」や北海道教育委員会による「北海道部活動の地域移行に関する推進計画」を踏まえ、中学校部活動の地域移行を見据えた改革を進める。</p> <p>○令和2年度に策定した「岩見沢市立小・中学校適正配置計画」に基づき、市内小・中学校の学校規模の適正化を図る。</p>	
令和5年度の達成目標	
<p>○教員の時間外在校等時間の縮減に向けた取組の推進を図る。</p> <p>○部活動改革に向けた検討組織を設置し、実証事業を実施する。</p> <p>○岩見沢市立小・中学校適正配置計画(後期計画)を策定する。</p>	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
<p>出退勤システムによる勤怠情報をもとに各学校における教員の時間外在校等時間を把握、集計し、毎月市ホームページ上で公表した。</p>	<p>ホームページでの公表を通し、各校の教職員に時間外在校等時間の縮減に向けた意識付けに繋がれたと考えており、次年度以降も継続実施する。</p>
<p>退職校長を「部活動コーディネーター」として任用し、部活動の現状把握や、学校・教育大学・関係団体等との情報交換を行い、部活動指導員の任用や拠点校部活動の実施等の取組に関する調整を図った。</p> <p>中学校部活動の各種目の顧問代表者による意見交換会を複数回開催し、各種目の現状や課題を把握しながら今後の取組について協議した。</p> <p>生徒の在籍校に伴う部活動の体験格差を是正するとともに、専門的知見を有する教員が部活動指導に参加できるよう拠点校部活動を導入した。</p> <p>教育大学岩見沢校と協力し、児童生徒・保護者・教職員に対するアンケート調査や周知活動、外部の専門家による部活動の指導体験等を実施した。</p>	<p>コーディネーターの配置により市内部活動の状況が可視化されるとともに、顧問との協議により課題が明らかとなった。今後の実証事業などを通じて岩見沢市ならではの部活動改革を推進する。</p>
<p>通学区域審議会において1学年1学級である第二小・上幌向中・北真小について審議した答申を踏まえ、現時点においてはいずれの学校も現状維持としつつ、今後に向けた議論は早期に開始し計画期間に固執せず適正配置の時期を見極めるべきとする「岩見沢市立小・中学校適正配置計画(後期計画)」を策定した。</p>	<p>今後においても児童生徒数の推移を注視し、計画期間にとらわれずに適正配置の議論を進める必要がある。</p>

今後の課題・取組の方向性

- 部活動の地域移行に向け、市内部活動の拠点校化や部活動指導員の増員を図るとともに、スポーツ庁の実証事業への取組みを通して課題の整理や対応策の協議を行う。
- 「岩見沢市立小・中学校適正配置計画(後期計画)」を踏まえ、児童生徒数の推移を適切に把握しながら小中学校の適正配置の必要性を検討する。
- 栗沢地域からの要望を踏まえ、栗沢小学校校舎を使用した義務教育学校を令和7年度に開校するために諸準備を行う。

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	A-3	担当課	【 指導室 】
教育行政方針の分野・重点施策名	学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実		
重点施策に関連する事務事業名	8) 教育支援センター事業		

目的・概要

○幼児、児童、生徒、保護者、学校等に必要な教育的支援を行い、子どもの人格の健全な成長を支援する。そのため、教育支援コーディネーターを相談窓口、関係機関とのパイプ役として配置し、必要に応じて、教育相談の専門家スタッフや登校支援室指導員が支援を行う。

令和5年度の達成目標

- 教育支援センターのリーフレットを全児童生徒の家庭に配付し、教育支援センターの周知に努める。
- 関係機関との連携を図り、悩み等の早期解決を図る。
- 専門家スタッフの積極的な学校訪問により、専門的見地からの実態把握や学校との連携を図った支援を実施する。

令和5年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

教育支援コーディネーターを窓口として、スクールソーシャルワーカー、医師、心理の専門家(SCスーパーバイザー)が教育相談を行い、必要に応じて関係機関と連携を図り、相談者の悩み等の早期発見・早期対応に努めることができた。	延べ相談件数 R3⇒658件 R4⇒901件 R5⇒1,145件 相談内容等が複雑化・多様化する中、それぞれのケースに応じて、子どもや保護者に寄り添い、迅速・適切に対応した。
学校等からの要請により教育支援センタースタッフが学校訪問を行い、医療・心理の専門的な見地からの実態把握を行い、支援が必要な児童生徒及び保護者などに対する早期対応を行うことができた。	各学校に要請に応じて、積極的に相談・支援を行った。心理検査ありきではなく、子どもの様子や養育歴等について多面的な分析を行った。
学校支援ボランティアを広報、市ホームページ、町内会を通じて募り、学習支援、体力測定補助、環境整備活動、農業体験補助等の活動を行った。	各校が考えた創意ある教育活動について、費用対効果が高く、子どもたちの学びへ向かう力を高める取組や教育的効果の高い取組に配分し、特色ある教育活動を支援した。
登校支援室(みらいわ)については、緑が丘ルーム(集団指導中心)、有明ルーム(個別指導中心)を活用し、学習支援はもとより体験的な活動なども導入しながら、個のニーズに応じた支援や日常的なカウンセリングの実施を通して、安心して過ごせる第三の居場所を提供した。	登校支援室通級者数 R3⇒50名 R4⇒52名 R5⇒55名 登校支援室からの高等学校進学 者数 R3⇒13名 R4⇒10名 R5⇒10名 学校復帰率はおよそ40% 中学校3年生全員が高等学校へ進学
「hyper-QU(よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート)」の分析結果を学校にフィードバックし、よりよい学級集団づくりといじめ・不登校等の未然防止に資することができた。	北翔大学の山谷学長による分析や指導・助言をよりよい学級集団作りに活用した。また、山谷学長の直接指導により、各校においても分析ができる教員が増え、教育活動の改善に大きく貢献した。

今後の課題・取組みの方向性

- 今後も専門スタッフによる積極的な学校訪問を実施し、支援が必要な児童生徒の早期発見・対応に取り組み、多様化・複雑化する課題の解決に向けて活動していく。
- 登校支援室へ通室する児童生徒に対しては、未来志向で支援し、学校復帰だけでなく社会的な自立を重視した支援を行っていく。また、発達支持的生徒指導の充実に向けて、すべての学級においてピア・サポートを土台とした学習集団づくりに取り組む。

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	A-3	担当課	【 指導室 】
教育行政方針の分野・重点施策名	学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実		
重点施策に関連する事務事業名	9) 特別支援教育推進事業 10) 教育研究所運営事業 11) 外国語指導助手活用事業		

目的・概要

- 心身に障がいのある児童生徒及び特別な教育的支援を必要とする児童生徒の自立と社会参加に向けた教育的ニーズを把握し、適切な就学支援及び個に応じた支援を行う。
- 岩見沢市の教育の充実のため、教育課題の解明に向けた調査・研究事業などを推進する拠点として教育研究所を運営する。
- 「英語が使える岩見沢の子ども」の育成を目指す。

令和5年度の達成目標

- 児童生徒の実態に応じて適切な支援を行い、一人一人の児童生徒の健全な発達を促す。
- 各種の研修講座や研究授業などを通して、教職員の実践的指導力の向上を図る。
- 学校での授業のみならず、子どもたちが外国の人とコミュニケーションを図る楽しさを体験することで、「英語が使える岩見沢の子ども」の育成を目指す。

令和5年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

特別支援教育推進委員会を開催するとともに、教育支援センター職員の巡回相談を実施し、特別支援学級はもとより、通常の学級における特別支援教育の充実に努めた。	令和5年度から特別支援教育推進委員会に緑陵高校の教員を加え、小・中・高の連携を図った。一方で、特別支援教育のねらいや合理的配慮、法令・制度面への理解を促すための研修会の充実が必要である。
特別支援学級及び通常の学級に在籍する支援を必要とする児童生徒に対する支援のため、特別支援教育支援員を配置(令和5年度28名)するとともに、効果的な支援を実施するための研修会を実施した。	特別支援学級及び通常学級における支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあることから、支援員の確保及び支援の在り方の検討を進める必要がある。
幼児ことばの教室において、言語聴覚士を含む2名の指導員による新規の相談者に対する教育相談、通級する幼児への指導・観察を実施した。	幼児ことばの教室と保健センター・子育て支援センター・子ども発達支援センターつみき園などと連携して指導にあたることができた。
市教育研究所の部会研究事業と指定校が連動した調査研究、遠隔学習をはじめとする情報教育事業、Web教材の作成、教育大学との連携事業など積極的な取組を行った。	管外や海外の学校と遠隔学習を行うことで、双方にとって効果的な学習を行うことができた。小学校3、4年生が利用している社会科副読本をデジタル版として改訂することで、リンクや動画を掲載することが可能となり、より充実した内容の副読本を作成した。
9名の外国語指導助手を市内の各小・中学校及び緑陵高等学校に配置し、外国語科及び外国語活動における指導内容の向上に努めるとともに、小学校中学年・高学年を対象とした「土曜キッズ英会話」を実施した。	「土曜キッズ英会話」では、参加者が英語を使うことへの必要感や有用感を感じられるよう事業内容を常に見直し、充実を図っていく必要がある。

今後の課題・取組みの方向性

- 特別支援教育担当教員はもとより、すべての教職員が特別支援教育への理解を深めるために、すべての教職員に特別支援教育推進委員会への参加を可能にするとともに、これまでの年3回の委員会を年5回へと変更する。
- 特別支援教育支援員の増員を目指し、子どもに寄り添う適切な配置に努める。
- 「土曜キッズ英会話」の質的充実及び効率的な運営に努める。

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	A-3	担当課	【 学校教育課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実		
重点施策に関連する事務事業名	1 2) 小・中学校校舎等管理事業		

目的・概要	
○小中学校の施設の維持管理や計画的な設備の更新・整備等を行い、教育環境の充実を図る。	
令和5年度の達成目標	
○小中学校の施設整備の維持管理を行い、児童生徒の安全確保と教育環境の充実を図る。	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
小中学校の校舎や屋内体育館における壁や床の破損、電気、機械及び給排水管設備等の故障や不具合については、安全性に関わるものを最優先に修繕を行った。	予定どおり実施できた。
主な修繕 北真小学校高圧ケーブル改修修繕 737,000円 美園小学校体育館暖房機修繕 9,350,000円 豊中学校高圧ケーブル改修修繕 990,000円 清園中学校放送卓修繕 2,530,000円	
主な工事 メーブル小学校校舎屋上防水・外壁改修工事 59,818,000円 メーブル小学校屋内体育館屋根・外壁改修工事 85,122,000円 清園中学校給油設備等改修工事 21,967,600円	
今後の課題・取組の方向性	
○小中学校の施設設備の維持管理について安全に関わるものを優先に修繕を実施する。 ○老朽化している施設も多く、修繕予算の確保が課題。	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	A-4	担当課	【 指導室 】
教育行政方針の分野・重点施策名	学校教育の推進 信頼と期待に応える開かれた学校づくり		
重点施策に関連する事務事業名	1 3) 教育指導振興事業※ 1 4) 学び・心はぐくむ学校活動支援事業※		

目的・概要	
○中学校区ごとに学校運営協議会を設置するコミュニティ・エリア構想を進め、学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動を推進することにより、「社会に開かれた教育課程」の実現に努める。	
令和5年度の達成目標	
○学校評価の充実により、各学校の教育活動その他の学校運営の改善を図る。 ○各学校が創意工夫を活かして企画立案する特色ある教育活動を積極的に支援するとともに、「学校・地域元気アップ支援事業」により地域人材をボランティアとして派遣し、学校・家庭・地域の連携・協働による教育活動を展開する。	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
コミュニティ・エリア構想により中学校区ごとに学校運営協議会の活動を推進し、特色ある学校づくり及び小中学校の円滑な接続による一貫した教育を行うことができた。	学校と地域が一体となり、共通理念をもとに熟議が行われた。引き続き、学校・家庭・地域が総がかりで子どもを育てる風土の醸成を目指す。
学び・心はぐくむ学校活動支援事業により、学力向上に向けた取組や豊かな心を育む取組、体力向上に向けた取組等、各学校が創意工夫を活かして企画立案する特色ある教育活動を積極的に支援することができた。	学校独自ではなく、中学校区の学校が共同で行う事業が増加したことで、9年間を見据えた教育活動の充実が図られた。
学校支援ボランティアを広報、市ホームページ、町内会を通じて募り、学習支援、体力測定補助、環境整備活動、農業体験補助等の活動を行った。	学習支援ボランティア延べ人数 R3⇒6,282名 R4⇒8,001名 R5⇒7,722名 各学校においてボランティアを有効に活用した教育活動が計画的・継続的に行われている。延べ人数は減ったものの活動延べ日数は増加傾向にある。
今後の課題・取組みの方向性	
○コミュニティ・エリア構想をさらに推進し、地域住民が主体的に子どもの教育に関わり、総がかり子どもを育てることが必要である。 ○学校活動支援事業の趣旨を活かした教育活動がより多くの学校で積極的に展開されるよう、授業づくりなど子どもたちへ還元される活動を支援していくことが重要である。 ○ボランティアの高齢化や需要と供給のバランスなどの課題の解消が必要である。	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	A-5	担当課	【 緑陵高等学校 】
教育行政方針の分野・重点施策名	学校教育の推進 緑陵高等学校の教育の充実		
重点施策に関連する事務事業名	15) 学校管理事業		

目的・概要

○市立高校として、地域の良さを学び地域社会の発展に貢献できる人材の育成を目指すとともに、家庭や地域社会と連携して市民に開かれた魅力あふれる学校づくりを推進する。

令和5年度の達成目標

- 自ら学び、考える生徒の育成
- 生徒の能力・適正に応じた進路の実現
- 教職員の専門性の向上と質の高い普通教育及び商業教育の提供
- 法令順守の徹底による円滑かつ適正な学校経営の推進

令和5年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

<p>授業では、Googleドキュメントやスライドを活用した生徒間での共同作業やプレゼンテーション、提出された動画をもとにした評価、授業の導入や振り返りとしてのオンデマンド対応など、各教科で様々な工夫が見られた。また、このようにICTを活用しながら生徒間での対話的な授業スタイルを実現する教科もでてきた。</p> <p>「総合的な探究の時間」では、スプレッドシートを活用したポータルサイトを作成し、教員と生徒間のデータ共有が円滑になった。このポータルサイトには、各グループの研究テーマや進捗状況、課題解決に向けたアイデアなどがリンクされており、生徒同士の情報共有や教員からの指導が容易になった。</p>	<p>教職員のスキルによる取り組み状況に差異が見られるものの、教職員向け研修の実施により、ICT機器の操作スキルや指導方法に関するスキル、オンライン授業の経験や知識が向上し、授業でのタブレット活用やオンライン授業の質が向上しつつある。</p>
---	---

<p>普通科「総合的な探究の時間」では市経済部・北大・岩見沢教育大・その他市内企業と連携し、探究活動の基礎知識や活動のヒントとなる指導をしていただくことで、従前の探究よりも生徒の視野が広がってきた。</p> <p>情報コミュニケーション科では「コロナ後の新たな学び」をテーマに市情報政策部・北大・武蔵野美大・日本総研と連携し、令和6年度から本格的に始まるSIP事業の地盤固めを進めてきた。また、今後の情報コミュニケーション科としてCGやプログラミング等の新たな強みの確立を目指しDXハイスクールに申請を行った。</p>	<p>普通科では産官学連携の事業を実施する中で、生徒だけでなく教員の指導力、質の向上が見られた。次年度も継続実施していく。</p> <p>情コミ科では令和6年度の事業展開(SIP/DXハイスクール)に向けての学校体制の確立が喫緊の課題である。</p>
---	---

<p>生徒の進路選択時期に合わせて、進路に関するガイダンスや説明会を定期的に実施した。</p> <p>進学希望者に向けて放課後や長期休業中に受験対策講座を実施するなど計画的な学習をサポートした。また大学入試制度や学部・学科の情報提供を行い、適切な進路選択を支援した。</p> <p>就職希望者に向けて市経済部や振興局等の外部機関と連携し、企業説明会や職場見学を実施し、実際の仕事現場を体験できる機会を提供した。またインターンシップや模擬面接を通して実践的な就職活動のスキルを身につけられるよう支援した。</p>	<p>各教科で新大学入試の傾向を分析し、思考・判断・表現力を身につけるためのカリキュラムの工夫が求められる。就職指導においては自己決定能力の指導が不足しているという課題を明確にした。</p>
---	---

<p>情報コミュニケーション科の生徒による管内中学生への学校説明会の実施。本校教員と生徒による美園小学校4年生への情報・理科の実験授業の実施。</p> <p>中学生向け学校説明会・体験授業を実施した。また前年度の続き岩見沢市内4校合同の小中学生・保護者対象の説明会を実施した。</p>	<p>概ね順調に進めた。次年度以降も継続実施していく。</p>
--	---------------------------------

<p>授業公開や芸術週間、地域の行事やイベントへの支援と積極的な参加、ボランティア活動など積極的に取り組み、開かれた学校づくりを推進した。</p>	<p>概ね順調に進めた。</p>
<p>PTA行事が徐々に復活していく中で、従来の形の見直しを行いながら、学校祭などできるだけ保護者が行事に参加できる形態で学校行事を実施した。</p>	<p>概ね順調に進めた。</p>
<p>今後の課題・取組の方向性</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な探究」「課題研究」の授業実践を活用し、生徒が自分自身の活動を発信するなかで、生徒の自己表現力、しなやかに生きる力を身に着け、将来「どう生きるか」を見据えた進路実現につなげる。 ○進路多様校としての本校の実態を踏まえ、スクールミッション達成のための教育課程の編成、特別活動・部活動の推進を図り、生徒募集につなげていく。 ○地域の高校再編を踏まえた、情報コミュニケーション科のコースの見直しに合わせて教育課程の変更の検討を進める。普通科の特色科の検討を進める。 ○授業、特別活動におけるICT機器活用を推進し、教職員の研修を進める。 ○新学習指導要領、観点別評価の理解を深め、令和の日本型教育に対応した実践を行う。 ○市立高校として小中高の連携に努める。 	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	A-6	担当課	【 学校給食課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	学校教育の推進 学校給食の充実		
重点施策に関連する事務事業名	16) 学校給食共同調理所運営事業		

目的・概要	
<p>○HACCPに基づいた衛生管理の徹底と、地元産の食材を積極的に活用し、安全・安心で子どもたちが健やかに成長できる学校給食に取り組む。</p> <p>○食に関する知識と望ましい食習慣を習得できるよう食育授業を充実させるとともに、試食会・施設見学等を通して給食に対する啓蒙活動を行う。</p> <p>○家庭や学校と連携し、子どもの命と健康を最優先とした食物アレルギーの対応を行う。</p>	
令和5年度の達成目標	
<p>○子どもたちの興味が沸く取り組みを推進する。</p> <p>○食材に地場産物を積極的に取り入れ、地産地消を推進する。</p> <p>○食育を充実させるとともに、市民へ給食に関する啓蒙活動を行う。</p> <p>○未利用食材の活用を図り、フードロスの削減に努める。</p>	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
<p>主食となる米や、麺の小麦は全て岩見沢産を使用した。</p> <p>野菜等についても収穫時期に合わせた献立を立案し、積極的に岩見沢産地場産物を使用した(タマネギ、レタス、ヤーコン、手造り味噌等)。</p> <p>また、岩見沢産の米粉でとろみ付けを行うなど、主食材以外についても地場産物を使用するよう努めた。</p>	<p>岩見沢産の地場産物を積極的に使用し、地産地消を推進することができた。</p>
<p>学校給食献立コンクールの入賞献立を学校給食の献立として提供することやセレクト給食を実施するなど子ども達に興味を持ってもらえる給食の提供を行った。</p>	<p>入賞献立の提供やセレクト給食は例年どおり実施することができた。</p>
<p>栄養教諭が各学校へ赴き、小・中学校合わせて19校、113学級(延べ128学級)で食に関する指導を実施した。</p>	<p>食育の授業はほぼ予定通り進めることができた。</p>
<p>9月に市民対象の試食会をであえーる(ひなた広場)開催、12月には学校給食展を有明交流プラザ(センターホール)で開催し、試食会の実施、パネル展示を行った。</p>	<p>市民向け試食会は会場選定を含め更なる工夫が必要である。</p>
<p>悪天候による臨時休校やインフルエンザ等による学級閉鎖等で発生した未利用食材を北海道教育大学岩見沢校へ24回2,757個(パン1,695個、デザート等1,062個)を譲渡し、学生の支援とともにフードロスの削減に努めた。</p>	<p>譲渡運用が容易である食材から試験的に実施しているが、他の未利用食材の活用方法の検討が必要である。</p>
今後の課題・取組の方向性	
<p>○調理業務における衛生管理を徹底するとともに、引き続き安全・安心を基本とした学校給食の提供を行う。</p> <p>○地元食材による地産地消を進めるとともに、食育の充実と学校給食の啓蒙に努める。</p> <p>○未利用食材の活用を図り、フードロスの削減に努める。</p>	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	B-1	担当課	【 生涯学習推進課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	社会教育の推進 生涯学習の充実		
重点施策に関連する事務事業名	17) 市民の学び支援事業		

目的・概要	
生涯学習センターを拠点に、「いわみぎわチャレンジスクール」や「いわみぎわ市民大学」の開催など、子どもから高齢者まで幅広い世代の学習機会の充実を図るとともに、学習情報や学習成果を活かせる場の提供に努め、市民の学習活動を支援する。	
令和5年度の達成目標	
○全ての世代に向けた学習の場の提供、情報発信、相談体制、指導者育成 ・児童・生徒を対象に、学習活動や体験活動の実施 ・いわみぎわ市民大学の開催 ・高齢者を対象とした社会参加意識の高揚を継続して進める	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
①いわみぎわチャレンジ・スクール 子どもたちの体験学習の充実を図るため、ものづくりや科学実験、料理など様々な講座を実施した。 (11回、参加者221人)	体験学習を通して、子ども達の豊かな心と健やかな体を育むことができた。
②いわみぎわ市民大学 専門的な知識を有する講師を迎え、様々な内容の講座を実施した。座学と体験の一体型講座により内容の充実を図り、参加がしやすくなるよう受講する講座を選択できるようにした。 (7回、参加者246人)	講座の開催により、市民が主体的に学ぶ学習機会を提供することができた。
③高齢者対象講座 仲間との交流や生きがいづくりに繋がる講座を実施し、積極的な社会参加の意識高揚と生きがいの創造を図った。 (15回、参加者222人) ※岩見沢：5回 146人、栗沢：5回 46人、北村：5回 30人	講座を実施することはできたが、地域によっては会場へ行く手段が無く、参加したくてもできないという状況にあった。学習機会の提供と併せて、学習できる環境づくりも進めなければならない。
④家庭教育推進事業 家庭教育に関する講座の実施により、子育て中の保護者と子どもを支える学習機会の充実を図った。 ・0歳児教育学級：2回 27人 ・2・3歳児教育学級：14回 179人 ・指導者活用講座：3回 27人 ・指導者育成講座：1回 12人	講座の実施により、家庭教育に関する学習機会の充実を図ることができた。
⑤いわなびサロン 学習成果を生かせる場として、市民自らが講師となり、趣味・趣向に関する講座を実施した。 (1講座、参加者5人)	市民が主体的に学び、得た知識を発揮・還元できる「学びの循環」を生むことができたが、例年に比べ、実施した講座数も参加者数も減少した。
今後の課題・取組の方向性	
○生涯にわたり、市民が主体的に充実した学びができるよう、多様化するニーズの把握と参加しやすい学習環境づくりを進める。	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	B-2	担当課	【 文化・スポーツ振興課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	社会教育の推進 芸術・文化活動の推進		
重点施策に関連する事務事業名	18) 文化のまちづくり事業		

目的・概要

- 音楽や演劇、美術作品等の鑑賞機会をはじめ、「市民の文化祭」等による発表機会の充実に努めるとともに、文化団体等の活動を支援し、地域文化の振興を図る。
- 個性豊かな市民文化の創造性に向けて、自主的な文化活動が多彩に繰り広げられ、身近に芸術文化に触れあう機会を拡充する。
- 心豊かな地域社会の形成を目指して、文化施設を活かした優れた芸術文化の鑑賞機会を提供し、地域文化の振興を図る。
- 岩見沢市出身の作家、故氷室冴子の業績を顕彰し、青春をテーマにした作品募集を行い、優れた才能を発掘する。

令和5年度の達成目標

- 様々な芸術鑑賞機会の提供による、市民の参加者の満足度を高める。
- 市民の文化活動を支援し、市民が身近に文化に触れる機会を提供する。
- 市民の文化活動に対する発表・鑑賞機会を充実し、文化意識の高揚を図る。
- 「第5回氷室冴子青春文学賞」の選考会や授賞式の開催など、関係団体との協力を進める。

令和5年度の実施状況

- 文化のまちづくり事業
 - (1)そらち太鼓フェスティバル2023
(1回実施:13団体、400人参加、視聴回数580回)
 - (2)劇団四季こころの劇場
(市内小学6年生、906人参加)
 - (3)まなみーるDEクラシック2023
(1回実施:482人参加)
 - (4)マチの記憶ライブXIII
(1回実施:2組出演、400人参加、視聴回数498回)
 - (5)ru企画2024～耳で味わう文学～「百年を爪弾く」
(2回公演:120人参加)
 - (6)岩見沢アーティスト育成事業
(7回実施:2事業、997人参加)
 - (7)「交響詩岩見沢」普及・啓発事業
(1回実施:570人参加)
 - (8)アウトリーチ(学校派遣)事業
(2回実施:18人参加)
・NPO法人ハマナスアート実施8事業/集客数3,893人(配信含む)
 - (9)氷室冴子青春文学賞
(第5回氷室冴子青春文学賞の最終選考)
 - (10)第1回いわみざわ絵画大賞展(周年記念事業)
9/23(土)～10/8(日) 3,073人来場

評価・反省点

幅広いニーズに対応した、質の高い芸術鑑賞機会を提供することができた。今後も地域に根ざした芸術・文化を創造・発信するため、関係団体・機関とも連携していく。

一般市民からなる特設合唱団を設立し市制施行80周年式典で披露し、まちの詩を多くの方に知ってもらえることができ、今後は定期的に歌い継いでいくことが必要。

氷室冴子青春文学賞から書籍化される作品が全国で読まれるきっかけとなっており、新しい文学の発展に繋がった。今後も岩見沢からオンラインのトークライブやウェブサイトを通じて文学的な情報発信を行い。文化の薫り高い魅力的なまちに繋がりたい。

芸術文化スポーツの祭典イベントの一つとして初開催にも関わらず、子ども部門、一般部門ともにバラエティに富んだ応募があり、教育大学の協力を得ながら定着に向けた取組を検討。

今後の課題・取組の方向性

- 「芸術文化のまち」のイメージ定着に向け、情報の質や量を意識した発信のほか、身近に触れることの少ない舞台芸術や音楽を通じ、芸術文化のまちづくりに向けた環境づくりについて、芸術文化活動に取り組むNPO法人ハマナスアートや教育大学岩見沢校との連携により取り進めていく必要がある。

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	B-3	担当課	【 文化・スポーツ振興課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	社会教育の推進 スポーツ活動の推進		
重点施策に関連する事務事業名	19) 健康・スポーツ振興事業		

目的・概要	
<p>○市民の健康づくりと生きがいづくりを推進するため、様々なスポーツ事業を実施する。また、各種スポーツの普及・振興と競技力の向上を図るため、スポーツ団体の活動や全国大会出場及び全道大会等の開催及び、将来を担うアスリートの活動に対する支援を行う。</p> <p>○障がい者スポーツに対する市民の理解と関心を高める。</p>	
令和5年度の達成目標	
<p>○スポーツ教室や大会の開催及び幅広い年齢層の参加者の獲得を図る。</p> <p>○全国大会出場や全道大会等の開催に奨励金・補助金を交付し支援する。</p> <p>○将来を担うアスリートの活動を支援する。</p> <p>○障がい者スポーツ体験イベントの開催の支援を行う。</p>	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
<p>○スポーツ行事開催事業</p> <p>(1)楽しいキッズスポーツ教室(10回実施：延499人参加)</p> <p>(2)市民歩け歩け大会(2回実施：46人参加)</p> <p>(3)歩くスキー教室(1回実施：15人参加)</p> <p>(4)歩くスキーの集い(1回実施：19人参加)</p> <p>(5)小学生スキー教室(3日間：延326人参加)</p> <p>(6)みんなで！YOGA(ヨガ)in2024 (1回実施：47名参加)</p> <p>(7)IWAMIZAWA FU小学生バスケットボールクリニック (1回実施：37人参加)</p> <p>(8)アルテミス北海道小学生バレーボール教室(周年事業) (1回実施：269人参加)</p>	<p>参加者の多くが、子どもと高齢者となっているため、年齢層が2極化している。30～40代の子育て世代に参加してもらえるよう事業内容の検討が必要である。</p>
<p>○スポーツ活動奨励事業</p> <p>(9)「スポーツの日」記念総合体育大会の開催支援 (550千円)</p> <p>(10)全道玉入れ選手権大会の開催支援(500千円)</p> <p>(11)全道・全国大会の開催支援(全道4回、全国1回)</p> <p>(12)全国大会出場報奨(4団体・77個人：1,780千円)</p> <p>(13)将来を担うアスリートに対する支援 (2個人：200千円)</p> <p>(14)スポーツ団体への支援(4団体：3,276千円)</p>	<p>様々な大会や上位を目指す方々への支援や公表を通じ、市への愛着や市民の興味・関心を図ることができた。</p>
<p>○アダプテッドスポーツ推進事業</p> <p>(15)アダスポ！岩見沢の開催補助(356人参加：500千円)</p>	<p>イベントには様々な世代が参加し、アダプテッドスポーツについて、広く市民に理解を深めることができた。</p>
今後の課題・取組の方向性	
<p>○運営スタッフの市民参画も視野に、市民への情報提供や募集などを行い、地域ぐるみの取り組みを展開していく必要がある。</p> <p>○活動団体への支援により、様々な大会等が行われているが、市主催事業とのバランス(量や目的、重複)の見極めや、団体間と調整し、事業をブラッシュアップする必要がある。</p> <p>○義務教育部門との横断的な連携をはじめ、スポーツに初めて触れる方や日常生活の一部として継続できるスポーツのきっかけづくりを必要課題として進めていく。</p>	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	B-3	担当課	【 文化・スポーツ振興課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	社会教育の推進 スポーツ活動の推進		
重点施策に関連する事務事業名	20) 体育施設管理事業		

目的・概要	
○利用者が安全・安心、快適にスポーツを楽しむことができるよう、施設の環境整備を図る。	
令和5年度の達成目標	
○指定管理者制度を活用し、適正な施設の管理・運営を実施 ○スポーツ協会からの要望や、緊急性を有するものから計画的に施設修繕等を実施	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
○体育施設管理事業 (1)指定管理者制度を活用した、施設の効率的かつ効果的な管理運営と利用者のニーズに応じたサービスの向上が図られた。	各施設の指定管理者とのコミュニケーションを図ることで、住民ニーズの把握し、サービスの向上を図ることができた。
(2)スポーツ協会要望を参考に優先順位をつけて、以下のとおり計画的な備品の調達を進めることができた。 ①陸上競技場ハードル更新 ②岡山スポーツフィールドサッカーゴール更新 ③総合体育館卓球フェンス更新	利用者のニーズに沿った施設設備の充実を図ることができた。
(3)各施設の修繕等については、利用者へのサービスに支障がないよう、指定管理者からの聞き取りを行うなどして施設の不具合の把握に努めた。	概ね不便のないよう進めることができたものの、老朽化の進行が著しいため、迅速な情報収集・対応が必要である。
(4)北村野球場については、開設から40年が経過しており利用者数も少ないことから、令和5年度末で用途廃止とした。	施設の老朽化や利用者数の観点から、役割を終えたと判断される施設の廃止を行うことができた。
(5)B & G財団からの助成を受け、栗沢B & G海洋センターのプール改修工事を行った。(総事業費183,470千円)	助成金の活用により、自主財源の圧縮が図ることができた。(助成額25,300千円)
今後の課題・取組の方向性	
○指定管理者制度導入施設においては、今後も効率的かつ効果的な運営ができるよう、指定管理者との適切な連携のもとサービスの向上に努めていく。 ○人口減少や利用者数の変化などから、施設の長寿命化と並行して、施設の最適化に向けた取り組みが必要。	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	B-4	担当課	【 図書館 】
教育行政方針の分野・重点施策名	社会教育の推進 図書館運営の充実		
重点施策に関連する事務事業名	2 1) 図書館活動運営事業 2 2) ブックスタート事業		

目的・概要

- 図書、記録、資料などの収集・保存に努め、誰もが知識や情報を得ることができる環境を整えるとともに、司書の専門性を活かし、幅広い世代に対応した読書普及活動を推進する。
- 「いわみぎわの子ども読書プラン」に基づき、子どもたちが本に触れる機会を広げるとともに、ブックスタート事業の充実に努める。

令和5年度の達成目標

- ①全館図書情報の共有と地域図書サービス拠点活用等による利便性向上
- ②広報誌やウェブ等による積極的な情報提供と誰もが知識・情報を得られる環境づくり
- ③司書の専門性の向上及び市民等との連携による幅広い世代に向けた読書普及活動
- ④学校や学校図書館、ボランティアと連携した子どもの読書の推進
- ⑤ブックスタートパック配布率の100%達成とフォローアップ事業の充実

令和5年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

①各館の立地特性や利用者層も踏まえた図書資料を収集するとともに、計画立てて蔵書管理を行った。	予定どおり実施できた。次年度も引き続き計画的な蔵書管理を行う。
②利用者サービス向上のため、広報紙や図書館だより、ホームページ、FMはまなすやSNSなどによる情報発信の充実を図った。また、高齢者や図書館利用に支障がある人への音声図書サービスや読み聞かせ研修など幅広いサービスの実績を重ねた。	専門知識を持つボランティアや行政の関連部署等と連携し、引き続きサービスの充実に努める。
③司書全員に計画的に研修を受講させ専門性を高めるとともに、教育大と連携した館内展示など、幅広い年代の読書普及と学びの支援、来館促進を図った。	引き続き実施するとともに、郷土科学館や市史資料室との連携により、地域の歴史資料の充実を図る。
④ボランティアとともに取り組む子ども向けイベントの実施や読書ノート等の配布、ブックトーク、学校図書館を通した市立図書館の本の貸出など、引き続き子どもたちが本に触れる機会を広げた。	次年度も引き続き各事業を実施したい。
⑤対象の親子全員にブックスタートの絵本を贈った。また、健康づくり推進課・子ども課との協働で実施するベビカフェや、親子を対象とした絵本の読み聞かせの定期開催などのフォローアップ事業を行った。	予定どおり実施できた。次年度も、各関係課等と連携し実施したい。

今後の課題・取組の方向性

- 計画的な蔵書管理と円滑な図書整備
- 地域図書サービス拠点との連携
- 司書研修の継続
- 高齢者や図書館利用に障がいのある人等を対象としたサービスの拡大と環境整備
- 学校と連携した子ども読書支援の継続、拡大
- ブックスタート事業の継続

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	C-1	担当課	【 こども未来課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	子ども・子育て支援の推進 子ども・子育て支援の充実		
重点施策に関連する事務事業名	23) 子ども・子育て支援事業 24) あそびの広場運営事業		

目的・概要	
<p>○子どもたちが健やかに成長し、楽しく子育てができるまちを目指し、「第2期子ども・子育てプラン(令和2年度～6年度)」に基づき、困った時に必要な支援を受けられる「安全」、将来を見通せる子育て支援サービスが受けられる「安心」、成長を喜び、子育てが楽しくなる「笑顔」の3つの視点から各事業を実施する。また、子ども・子育て会議において、同プランの進行管理のほか、必要な施策等の協議を行う。</p> <p>【主な事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイ、トワイライトステイの実施 ・産前産後ヘルパー事業の実施 ・ファミリー・サポート・センター事業の実施 ・一年を通じて天候を気にせず楽しめる全天候型の「あそびの広場」の運営 	
令和5年度の達成目標	
<p>①子ども・子育て会議を開催し、岩見沢市子ども・子育てプランの進行管理を行う。</p> <p>②子ども・子育て会議に専門部会を設置し、子どもの体験活動事業補助金の募集要項の設定や対象団体の選考のほか、「えみふるふぁいる」の普及・運用に向けた協議、ヤングケアラー支援についての協議を行う。</p> <p>③ショートステイやトワイライトステイのほか、産前産後ヘルパー事業、ファミリー・サポート・センター事業などの子ども・子育て支援事業を実施し、保護者負担の軽減や子育てと就労を両立できる環境づくりを行う。</p> <p>④あそびの広場を運営し、市内外から年間を通じて52,700人(目標値)を集客する。</p> <p>【指定管理者：振興いわみざわ】</p>	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
<p>子ども・子育て会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月 第1回会議 令和4年度の対象事業の評価及び令和5年度の主な事業について協議 ・2月 第2回会議 プランの実施状況、事業進捗状況について協議、第3期プランの策定スケジュールの報告 	<p>えみふるふぁいるの更なる普及のほか、保育所などの施設利用に対する意見をいただいた。</p>
<p>子どもの安全と安心に関する専門部会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 第1回会議 募集要項や審査方法等の設定 ・5月 第2回会議 補助金交付団体の審査 <p>ヤングケアラーに関する専門部会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月 第1回会議 実績報告、今後の取組みについて <p>えみふるふぁいるに関する専門部会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月 第1回会議 配付状況、令和5年度の取組み、今後の方向性について 	<p>レクリエーション事業など中学校区で活動する計6団体に支援することができた。また、えみふるふぁいるやヤングケアラー支援における今後の取組みについて意見をいただいた。</p>
<p>子ども・子育て支援事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイ実績：延利用者7人、9日間の利用 ・トワイライトステイ実績：延利用者13人、18日間の利用 ・産前産後ヘルパー実績： 登録61人、利用回数199回、利用時間数391時間 ・ファミリー・サポート・センター事業実績： 援助活動件数357回、提供会員60人(+4)、 依頼会員308人(+39)、 両方会員9人(+2) 	<p>ファミリー・サポート・センター事業は、保育園や放課後児童クラブへの送迎のほか、短時間の預かりなど一定の利用があり子育てニーズに対応することができた。</p>

<p>あそびの広場 コロナが5類に移行したため、6月より第3クールの営業を再開したほか、各種スポーツ教室も並行して実施した。</p> <p>・利用実績</p> <p>R5 55,072人(市内17,156人 市外37,916人 団体利用除く) R4 40,320人(市内11,741人 市外28,579人 団体利用除く) R3 23,240人(市内10,341人 市外12,899人 団体利用除く) R2 18,054人(市内 7,245人 市外10,809人 団体利用除く) R1 54,110人(市内20,291人 市外33,819人 団体利用除く)</p>	<p>利用者数は昨年度と比較して約37%の増加となった。各種スポーツ教室の内容充実を図るほか、SNSを活用したPRを積極的に行った。</p>
<p>今後の課題・取組の方向性</p>	
<p>「第2期岩見沢市子ども・子育てプラン(令和2年度～6年度)」に基づき、「安全」「安心」「笑顔」の3つの視点から事業を推進し、引き続き子どもたちが健やかに成長し、安心して子育てができる環境づくりに努める。また、子どもたちがどのような家庭環境、経済状況にあっても、誰一人置き去りにされることなく、将来に希望をもって成長できるよう、地域や保護者のニーズに応え、子ども・子育て支援事業に取り組んでいく。</p>	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	C-1	担当課	【 こども未来課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	子ども・子育て支援の推進 子ども・子育て支援の充実		
重点施策に関連する事務事業名	25) 栗沢認定こども園運営事業 26) 保育所入所・幼稚園入所運営事業 27) 病児保育運営事業 28) 保育・教育人材確保事業		

目的・概要

- 子どもたちが健やかに成長し、楽しく子育てができるまちを目指した「第2期岩見沢市子ども・子育てプラン(令和2年度～6年度)」に基づき、困った時に必要な支援を受けられる「安全」、将来を見通せる子育て支援サービスが受けられる「安心」、成長を喜び、子育てが楽しくなる「笑顔」の3つの視点から各事業を実施する。
- ・栗沢認定こども園の運営管理
 - ・認可保育所の入所と特別保育等の実施及び幼稚園入所運営の実施
 - ・病児保育の実施
 - ・保育士等確保対策事業補助金の実施

令和5年度の達成目標

- 保育所と幼稚園を一体的に運営する栗沢認定こども園の管理を行い、栗沢地域の子育て支援や地域交流の活性化を図る。
- 認可保育所利用に係る事務、法人立保育園に対する運営費の支弁や特別保育など安定した保育環境を維持する。また、私立幼稚園に対する運営費を負担する。
- 病気で回復期に至っていない子どもを、保護者が仕事等により家庭で保育ができない場合に専用施設で一時的に保育を行う。
- 市内の保育士又は幼稚園教諭の人材を確保するために必要な費用の一部について、補助金を交付することにより、幼児教育・保育の質の維持及び向上を図る。

令和5年度の実施状況	評価・反省点
------------	--------

令和5年度の実施状況	評価・反省点
保育所と幼稚園を一体的に運営する栗沢認定こども園の運営管理を指定管理者に委託し、保育と幼児教育を一体的に行った。	地域住民等の理解と協力により、栗沢地区の教育・保育環境支援の継続が図られた。
認可保育所の利用を希望する児童の入所事務を行った。 保育料基準額表を減額・細分化し、小学校3年生の子から数えて第3子目以降及び同時入所の第2子に係る保育料を無料とした。 ・認可保育所等：20園、定員1,171人、 令和6年3月初日の入所人員1,174人。 認定こども園の幼稚園枠は101人。 ・特別保育等：延長保育13園、一時預かり2園、 休日保育1園、障がい児保育6園 ・私立幼稚園：4園、定員480人、 令和6年3月初日の入所人員494人。	今年度についても待機児童は生じなかった。
・病児保育：岩見沢市立病児保育施設(9条西7丁目1-3) 登録児童数：126人 延べ利用児童数：200人 利用料金 半日(5時間未満)1,000円 1日(5時間以上)2,000円 ※給食費等別途 ※生活保護及び市民税非課税世帯無料	病児保育の実施により、保護者の子育てと就労の両立を支援することができた。

<p>・保育士又は幼稚園教諭の人材を確保するために必要な経費の補助を行った。</p> <p>【対象施設】幼稚園・認可保育所・認定こども園・小規模保育事業所</p> <p>【対象職員】令和5年度に保育士・幼稚園教諭として新規採用する職員のうち、前年度に養成学校等を卒業する者</p> <p>【交付上限】1人につき200,000円以内</p> <p>【交付実績】認可保育所4園、計4名、交付額計800,000円 幼稚園1園、計1名、交付額計200,000円</p> <p>【実施期間】第2期子ども・子育てプランの計画期間 令和2年度～令和6年度まで</p>	<p>保育士等確保対策事業補助金の交付により、幼児教育・保育の質の維持及び向上が図られた。</p>
<p>今後の課題・取組の方向性</p>	
<p>○栗沢認定こども園については、指定管理者との連絡調整を引き続き行い地域の保育等の支援を行う。</p> <p>○保育・教育人材確保事業については、最終年度となることから、各事業所へ積極的な活用を呼び掛ける。</p>	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	C-2	担当課	【 こども未来課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	子ども・子育て支援の推進 子育て相談体制の充実		
重点施策に関連する事務事業名	2) 9) 子育て総合支援センター事業		

目的・概要	
<p>○子育てに喜びや楽しみを感じ、安心して子どもを育てることができるよう、こども・子育てひろば「えみふる」を中心に、いつでも気軽に子育てや発達に関する相談や支援を受けられる環境づくりに取り組む。</p> <p>【主な事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターを中心とした相談等の実施 ・常設型子育て親子ひろば「ひなたっ子」の運営と地域親子ひろばへの支援 ・子ども発達支援センターを運営し、子育て支援の観点から早期療育につなげる相談支援 	
令和5年度の達成目標	
<p>①子育て総合支援センターを中心に子育てや発達に関する相談や情報提供、各種行事等を実施することにより、子育てに対する負担感・不安感を軽減する。</p> <p>②「ひなたっ子」において、子育て中の親子の交流の場を提供し、楽しい育児を支援する。</p> <p>③子ども発達支援センターの療育相談により保護者負担の軽減と早期療育を行うほか、1歳6か月児健診を受診するすべての子どもへ「えみふる ふぁいる」を配布するとともに、その運用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「えみふる」の各構成部門が連携し、生まれてから高校を卒業するまでの間、切れ目のない相談や支援を受けられる環境づくりを行う。 	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
<p>子育て支援センターによる相談事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談 930件 ・家庭・児童相談 650件 ・おしゃべりルーム 44回、564組、1,231名 <p>えみふる構成部門連携 相談・支援連携件数 205件 あそびの広場「子育て相談」 相談件数 21日106件</p>	<p>相談・連携件数が増えたほか、おしゃべりルーム参加者も増加した。小児科医による子育て相談は、令和5年度より廃止となった。</p>
<p>「ひなたっ子」において、子育て中の親子の交流の場の提供と交流の促進を実施。</p> <p>ひなたっ子：開設196日、利用者数9,304人 地域親子ひろばへの支援：10回</p>	<p>昨年同様の利用実績を維持しており、親子の交流が促進され、利用者ニーズに対応できている。</p>
<p>子ども発達支援センターによる相談・支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録人数 就学児19名、未就学児172名 計191名 ・相談・支援件数 就学児49件、未就学児298件、計347件 ・療育支援教室こどもサポート「うずら」の開催 実施回数9回、支援児童数17名 ・えみふるふぁいるの配布部数 364部 	<p>発達相談に関するニーズは引き続き高く、今後も質の高い対応が求められる。また、発達支援については関係機関同士の連携が必須であり、今後も連携の強化が求められている。</p>
今後の課題・取組の方向性	
<p>○児童福祉と母子保健が一体となった「こども家庭センター」を設置し、すべての妊産婦、こども・子育て世帯に対し切れ目のない支援を行う。また、子ども発達支援センター事業を実施し、「えみふる ふぁいる」の活用により関係機関との連携を図り、早期発見・早期療育を含めた総合的な子育て支援を行う。</p>	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	C-3	担当課	【 こども未来課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	子ども・子育て支援の推進 放課後活動の充実		
重点施策に関連する事務事業名	30) 留守家庭児童対策事業 31) 児童厚生施設運営事業		

目的・概要	
<p>○保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校の児童に対し、安全で健やかに過ごすことができるように、児童館のほか、小学校クラブ等の計20か所で放課後児童クラブを運営する。</p> <p>○民間の放課後児童クラブ1か所の運営を支援する。</p>	
令和5年度の達成目標	
<p>①放課後児童クラブが、子どもたちにとって安全・安心で楽しい居場所となり、適正な規模で活動できるよう、必要な職員数の配置や施設・設備等の環境整備を行う。</p> <p>②特色ある取組を行う民間児童クラブに対し、国の補助基準に基づく補助金を交付し、経営の安定化を図る。</p> <p>③保護者の就労を支援するため、延長保育の実施のほか、土曜日や長期休業期間において、早朝の時間から子どもを見守る「おはようキッズ事業」を実施する。</p>	
令和5年度の実施状況	評価・反省点
<p>登録要件を満たす1～6年生の児童に対し、学年を分けて児童館12か所、小学校5校、公共施設2か所、地域施設1か所で児童の受け入れを行った。</p> <p>また、全市的な親睦・交流の機会として例年開催していた「児童館スポーツレク交流会」「高学年レクレーション交流会」「冬季レクレーション」は、コロナ禍以降、児童館やクラブでの個別開催としており、今後の交流事業について検討を行った。</p>	<p>日曜祝日を除く、年293日開設し、1日平均約414人の受け入れを行い、児童に遊びと生活の場を提供することができた。</p>
<p>特色ある取組を行う民間の放課後児童クラブ(1団体)に対し、補助金を交付した。 (箇所数：1か所、補助金の額：合計8,058千円)</p>	<p>市営クラブと同様に職員の処遇改善に係る経費を上乗せし補助金を交付することで、民間クラブの経営安定化を図ることができた。</p>
<p>保護者の就労等により延長保育を必要とする児童に対し、開所時間を1時間延長し、18時から19時まで受け入れを行った。また、土曜日や長期休業期間中に8時半からの受け入れでは、就労に間に合わない家庭を対象に、シルバー人材センターの協力を得て7時半から児童を受け入れする「おはようキッズ事業」を実施した。</p>	<p>延長保育は85人が登録し、1日平均で19人が利用。おはようキッズ事業は689人が登録し、1日平均で116人が利用。就労に合わせそれぞれニーズに対応した。</p>
今後の課題・取組の方向性	
<p>○子どもたちが安全・安心に活動し、健やかに成長できるよう、日々の活動や行事、イベント等に工夫を凝らし、活動の充実を図る。また、保護者の子育てと就労の両立を支援するため、引き続き延長保育やおはようキッズ事業を実施する。</p>	

令和5年度 岩見沢市教育行政点検評価表

施策番号	C-4	担当課	【 指導室・生涯学習推進課 】
教育行政方針の分野・重点施策名	子ども・子育て支援の推進 青少年健全育成の充実		
重点施策に関連する事務事業名	3 2) 青少年対策事業 3 3) 青少年育成事業		

目的・概要

- 青少年非行の早期発見、早期指導に努めるとともに、非行を招く環境の改善に取り組む。また、小中高等学校における生徒指導上の諸問題を共有し、生徒指導の充実を図る。
- 青少年が様々な人との交流を通じて、正しい判断力を持ち、社会参加することができるよう成長を支援するとともに、子どもの貧困対策の観点から体験の機会格差の解消を図るため、子どもの体験活動事業を推進する。

令和5年度の達成目標

- ①青少年の健全育成及び非行防止を推進するため、青少年センターが中心となり、青少年問題協議会や小中高生徒指導連絡協議会と連携し、児童生徒を取り巻く諸問題について協議し、健全育成事業や生徒指導の充実を図る。
- ②少年の主張や子ども会事業など各種の青少年育成事業を通じ、青少年の自立と社会参加を促すとともに、学習や体験など子どもが自らの意思で参加できる機会の充実に向け、体験活動事業を実施する団体やグループを支援する。

令和5年度の実施状況

令和5年度の実施状況	評価・反省点
<p>【非行防止関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常及び特別補導、街頭補導活動、地区補導員連絡協議会及び町会育成協議会での情報交流。 ・立入調査員や環境浄化モニターによる調査(携帯電話販売事業者、有害図書類、カオボックス等の調査活動等)の実施や広報紙の学校等への配布。 ・生徒指導研究員会、小中高生徒指導連絡協議会、地区補導員、高等学校生活指導担当等との連携。 	<p>生徒指導力の向上図るため、生徒指導研修の強化を図ったほか、地域や各関係機関と連携し、青少年の非行防止に努めることができた。 また、メディアリテラシーや非行防止の出前講座を実施し、啓発に努めた。</p>
<p>【健全育成関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子ども会育成会連合会による、市内の児童を対象にした交流事業の実施(キャンプ、野球大会、炭鉄港ツアー、書初大会) ・少年の主張、子ども発明工夫展など、少年が自ら考え行動するきっかけとなる事業の実施 ・リーダー養成のための子ども会リーダー研修会については、参加希望者なし。 ・善行少年・青少年健全育成功労者表彰を実施し、善行少年に3個人、2団体、青少年健全育成功労者に4個人を表彰した。 	<p>開催内容を見直しながら、自主性や社会性を育むことができる機会の確保が図れた。</p>
<p>子どもが自分の意思で参加できること、学校を通じた情報の提供、参加に当たっての経済的負担の軽減などを条件に、各種レクリエーション事業など、公募で選ばれた6つの団体に対し上限10万円を補助した。 (青少年健全育成基金を活用)</p>	<p>子どもに直接情報が届けられる広報活動のほか、子どもたちへ遊びを提供する視点に飽きさせない工夫など、団体等に対して適切な助言・支援が必要である。</p>

今後の課題・取組の方向性

- 「第2期岩見沢市子ども・子育てプラン(令和2年度～6年度)」に基づき、子どもの貧困対策の観点から、子どもの居場所づくりの充実に努め、未来を担う青少年が社会的に自立した生活を送ることができるよう、様々な体験活動等を提供していく。また、青少年センターが取り組む非行防止については、学校・家庭・地域の既存の枠組みだけでなく、児童に直接届けられるよう児童館を拠点とした非行防止教室に取り組んでいく。

第4章 学識経験を有する方からの改善に向けたご意見

《学校教育の推進》

新しい時代に対応できる力の育成

学力向上対策事業について

創造性や自己表現力など、これからの時代に求められる能力の育成に向けて、今後の指導方法等の改善・充実に取り組んでほしい。

ICT教育推進事業について

タブレット端末や校務支援システムの導入により利便性が向上した一方、安全安心なネットワーク環境や情報資産を取り扱う職員の危機管理意識の向上が一層求められている。情報セキュリティ研修の実施にあたっては、より実態に即した内容を検討するなど、職員1人1人が当事者であることを改めて認識できるよう取り組みを推進していただきたい。

豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進

教育指導振興事業について

全国体力・運動能力、運動習慣等調査について、子どもたちの体力・運動能力の向上や運動習慣を身に付けるため、経済格差が及ぼす影響への支援策も検討するなど、多様なアプローチから引き続き、関係機関と連携し取り組んでいただきたい。

育ちと学びを支える教育環境の充実

小・中学校管理事業について

働き方改革において教員の時間外勤務は削減傾向にあるものの、依然多い状況であることから、学校と協調しながら、業務の効率化や部活動改革などを推進し、教員が児童生徒と向き合える環境づくりに努めてほしい。

信頼と期待に応える開かれた学校づくり

教育指導振興事業について

コミュニティエリア構想について、学校改善を行うとともに学校を核としたまちづくりを進めていくうえで、各自が当事者意識を持って活動することが重要である。学校資源が地域にも開放されていると認識してもらう為に、地域の方が日常的に学校に足を運ぶことができる取り組みに努めながら、構想の推進を図っていただきたい。

緑陵高等学校の教育の充実

学校管理事業について

市立の高校という地域に根付いている強みや、情報コミュニケーション科併置校の特性を活かした総合的な探究の活動の差別化を検討するなど、普通科及び情報コミュニケーション科のそれぞれの特色を生かした魅力のある高校づくりを進めていただきたい。

学校給食の充実

学校給食共同調理所運営事業について

給食について、新規メニューの開発やフードロス対策の取り組みなど、様々な工夫がみられる。引き続き安全安心な給食の提供に努めていただきたい。また、学校給食に対する意見、取り組みに対する評価など、子ども達当事者へアンケート調査を実施するなど、定点観測及び実施内容を適宜修正できる仕組みの構築を検討していただきたい。

《社会教育の推進》

芸術・文化活動の推進

文化のまちづくり事業について

文化活動を市民が行っていく中で、今後メンバーの高齢化により活動が困難になることもある。文化を絶やさず次の世代へ引き継いでいくためにも、活動を継承していくことが重要である。文化活動が途切れないよう、継続できるような仕組みづくりなどを検討いただきたい。

スポーツ活動の推進

体育施設管理事業について

施設の老朽化による建て替えを検討する際に、人口規模に合わせた施設規模にすることも重要だが、芸術・文化・スポーツそれぞれが寄り添い目的を持った施設集約を検討するとともに、イメージを市民と共有しながら施設整備を推進していただきたい。

《子ども・子育て支援の推進》

子ども・子育て支援の充実

子ども・子育て支援事業について

ヤングケアラーに対する支援は、地域では実態の把握が難しく、子どもと接する時間が長い学校や子ども食堂などの体験活動を通じて、情報を把握できるよう関係機関と連携しながら、子どもの学びの機会を保障する取組を進めていただきたい。

青少年健全育成の充実

青少年育成事業について

青少年の教育活動として、子ども達が主体的に自分たちの活動を企画立案したり、環境を整備したりする機会を作ることは非常に重要なものであり、取り組みを進めていくうえでは社会教育だけではなく、教育委員会全体で連携を深めながら推進していただきたい。

令和 5 年度 教育行政方針

I はじめに

II 学校教育の推進

- 1 新しい時代に対応できる力の育成
- 2 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進
- 3 育ちと学びを支える教育環境の充実
- 4 信頼と期待に応える開かれた学校づくり
- 5 緑陵高等学校の教育の充実
- 6 学校給食の充実

III 社会教育の推進

- 1 生涯学習の充実
- 2 芸術・文化活動の推進
- 3 スポーツ活動の推進
- 4 図書館運営の充実

IV 子ども・子育て支援の推進

- 1 子ども・子育て支援の充実
- 2 子育て相談体制の充実
- 3 放課後活動の充実
- 4 青少年健全育成の充実

V おわりに

I はじめに

教育は、一人一人の可能性を広げ、未来を創造する営みです。

子どもたちの将来は、A I や I o T、ロボティクスなどの先端科学技術が急速に高度化し、社会の在り方そのものが急激に変化するとともに、グローバル化がさらに進展するものと推測されます。

また、ウィズ・コロナの社会に向けて、いまを生きる私たち一人一人、そして、社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われる時代に直面しています。

次代を生きる子どもたちにとってこれからの社会が、どんなに変化し予測困難であったとしても、個人の幸せと社会の幸せの両立を図るウェルビーイング (Well-being) を実現していくために、社会を構成する当事者として、自ら主体的に考え、責任ある行動をとることが求められます。

子どもたちが自分の将来に向けて、夢や希望を描き続け、失敗に挫けず、困難にも怯むことなく立ち向かい、自分らしさを発揮して、自己実現を図るとともに、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の創り手となる資質や能力を身につけるよう働きかけていくことが教育の役割です。

そのことを念頭に置いて、岩見沢市教育大綱に基づき、市民の信頼に応える温かい、心のこもった教育行政を推進してまいります。

学校教育につきましては、「子どもが輝く岩見沢の教育づくり」に向けて、一人一人の子どもを主語にした授業づくりへと授業観・指導観を転換することによって確かな学力の定着を図り、「未来のトビラを拓く、教育のまち 岩見沢」として子どもと保護者の期待や信頼に応えてまいります。

社会教育につきましては、岩見沢に暮らす全ての市民が生涯を通じて学び続け、生きがいのある豊かな生活を送ることができるよう芸術、文化、スポーツの振興や図書館運営の充実に努めてまいります。

子ども・子育て支援につきましては、「誰もが笑顔で子育てできるまちづくり」に向けて、「えみふる」を中心に、各部署や機関が連携し、誰一

人取り残されることなく相談や支援が気軽に受けられる体制づくりを推進してまいります。

これより、本年度の施策の概要について述べてまいります。

II 学校教育の推進

はじめに、「学校教育の推進」についてです。子どもたち一人一人が自己肯定感や自己有用感を高められるよう、「子どもが輝く岩見沢の教育づくり」を推進してまいります。

1 新しい時代に対応できる力の育成

1点目は、「新しい時代に対応できる力の育成」についてです。

子どもが豊かな人生を切り拓いていくうえで必要な資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」を通して、確かな学力の追求に努めてまいります。

そのため、小中学校においては、何を学ぶかだけでなく、どのように学ぶのかを重視し、習得と探究が相互に結びつく「教えて考えさせる授業」の理念を基盤とし、身につけさせる資質・能力を明確にした、子どもが学びの主体となり、子どもの声が響き合う「子どもと創る授業」を展開いたします。

また、学力向上の基盤となる「傾聴・受容・共感」の信頼関係に基づく仲間づくりや学習スキルの向上、学習ルールの徹底による子どもたちの学びの形成に努めてまいります。

さらに、進捗状況を的確に把握し、目標を明確にしたPDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントに基づき、教育課程の工夫・改善を行うことにより、コミュニティ・エリアにおける義務教育9カ年を見通した組織的な学力向上の取組みを積極的に推進してまいります。

また、GIGAスクール構想による一人一台の端末を効果的に活用した授業づくりを推進し、個に応じた指導の充実を図る個別最適な学びと、他者と学び合う協働的な学びの一体的な充実を図ってまいります。

さらに、外国語指導助手（ALT）を有効に活用するなど、「英語が使える岩見沢の子ども」の育成に向けて、外国語教育の充実を図ってまい

ります。

そのほか、大学の教員による出前授業や協力授業など、北海道教育大学岩見沢校との連携を図った教育活動を強化するとともに、学校が企画・立案する学力向上や地域との連携などの取組みを積極的に支援し、学校が組織的に機能する学校力の向上を図ってまいります。

2 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進

2点目は、「豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進」についてです。

子どもたちの豊かな人間性を育成するため、よりよい仲間づくりにつながるピア・サポートの取組みを通して自尊感情や自己有用感を育むとともに、誰もが自己の成長を実感し達成感の持てる授業づくり、子どもの気持ちに寄り添う日常的な子ども理解に基づく指導に努めてまいります。

また、子どもたちが岩見沢の人・歴史・文化・自然・産業などを学ぶことにより、ふるさとに愛着と誇りを持てるよう「ふるさと教育」を推進してまいります。加えて、道徳教育の充実を図り、命を大切にし、豊かな人間性・社会性を育てる「心の教育」を推進してまいります。

さらに、体験活動や読書活動の充実を図り、豊かな感性や想像力を育ててまいります。

子どもたちの健やかな体を育成するため、すべての学年で行う体力テストの結果に基づき、体育の授業改善と9年間を見通した体力づくりに取り組み、体力の向上や運動の習慣化を図ってまいります。あわせて、子どもたちがスポーツや芸術文化に継続して親しむ機会を確保するため、部活動の地域移行を進めてまいります。

また、「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめとする「家庭での5つの約束」を基本とした啓発活動を広く展開し、望ましい生活習慣の定着に努めてまいります。

さらに、薬物乱用防止教育や防災教育の充実を図り、自らの判断で自分の命を守ることのできる力を養ってまいります。

3 育ちと学びを支える教育環境の充実

3点目は、「育ちと学びを支える教育環境の充実」についてです。

「岩見沢市いじめ防止基本方針」に基づく「岩見沢市いじめ問題対策連絡協議会」等の組織や「教育支援センター」と学校との連携を中心に、いじめや不登校の問題をはじめ、悩みや不安を持つ子どもや保護者の気持ちに寄り添い、幅広く支援してまいります。

特別支援教育支援員や学校看護師の配置などにより、子ども一人一人の発達を保障する特別支援教育の充実に努めるとともに、将来の生き方や望ましい職業観・勤労観を育むキャリア教育を一層推進してまいります。

また、学習塾と連携したオンデマンドによる教科・英検学習、囲碁の授業、長期休業中の「学び合い広場」など、多様な学びの場と機会を提供してまいります。

教育研究所では、教育の理論化と実践検証を図る「調査」「研究」、教職員の育成と教育の具現化を図る「養成」「研修」、外部連携と情報提供を図る「連携」「普及」の各事業を充実させ、教員の実践的指導力や専門性など、ライフステージとキャリアステージに応じた資質・能力の向上を図る取組みを推進してまいります。

また、コミュニティ・エリア単位での特色ある学校づくり、及び小中学校の円滑な接続による一貫した教育を推進するため、北村、栗沢地区における小中一貫教育の実施に伴う先進的な成果を広く発信してまいります。そのほか、子どもたちの安全・安心で快適な教育環境を確保するため、学校施設の老朽化対策など施設設備の改修を行ってまいります。

4 信頼と期待に応える開かれた学校づくり

4点目は、「信頼と期待に応える開かれた学校づくり」についてです。

学校においては、子どもたちが未来を生き抜くために必要な資質・能力を育むため、「社会に開かれた教育課程」を実施し、教育活動や学校運営の改善・充実を図るとともに、業務の見直しや改善を図り、子どもと向き合い、子どもを徹底して大切にする教育の実現に向けた「学校における働き方改革」を推進してまいります。

また、中学校区ごとのコミュニティ・エリアを基盤とした「地域とともに歩む学校づくり」を推進し、子どもたちにふるさと岩見沢への誇りと愛着を醸成するとともに、地域に立脚した学校づくりを進めてまいります。

さらに、幼児期から義務教育を通じて高校・大学までの連携・交流を促進し、学びの連続性を実現する教育活動を展開してまいります。

5 緑陵高等学校の教育の充実

5点目は、「緑陵高等学校の教育の充実」についてです。

市立高校として、地域を愛し、地域に貢献する心豊かな人材の育成を目指して家庭や地域と連携するとともに、ICTを効果的に活用した授業の実施など教育環境の充実を図ってまいります。また、英語教育の推進や課題研究、探究活動といった主体的な学びの充実、及び現代社会における情報化や技術革新の進展に即応できる人材の育成など、質の高い教育を提供してまいります。

さらに、普通科、情報コミュニケーション科の併置校という特色を活かして生徒の興味関心に応え、多様な進路希望を叶える教育課程を編成・実施し、将来の自己実現に向けた資質・能力を育成する活力と魅力ある学校づくりを推進してまいります。

6 学校給食の充実

6点目は、「学校給食の充実」についてです。

学校給食共同調理所においてHACCPに基づいた食品の衛生管理を徹底し、新鮮で安全な地元産の食材を積極的に活用するほか、温かいものは温かく、冷たいものは冷たいまま、美味しさと栄養のバランスに配慮し、子どもたちに喜ばれる学校給食の提供に努めてまいります。

また、栄養教諭による食育の授業や共同調理所の見学等を通じて子どもたちが食に対する関心を高め、生産者や給食を作ってくれる人への感謝の気持ちを持つとともに、望ましい食習慣を身につけることができるよう、食育の充実に取り組んでまいります。

食物アレルギーについては、子どもの命と健康を守ることを最優先とし、家庭や学校と連携して取り組み、安全で、安心な学校給食の提供に努

めてまいります。

また、市民に学校給食への理解を深めていただけるよう、施設見学会や学校給食展など各種事業に取り組んでまいります。

III 社会教育の推進

次に、「社会教育の推進」についてです。市民一人一人が未来に希望をもって生き生きと学び、創造性に富んだ豊かな人間性を育み、潤いのある地域づくりにつながるよう「生涯にわたって主体的に学ぶ環境づくり」を推進してまいります。

1 生涯学習の充実

1点目は、「生涯学習の充実」についてです。

子どもから高齢者まで、誰もが生涯にわたって学ぶことの楽しさを実感し、生きがいのある豊かな生活を送るため、知識や経験を生かした社会参加を促進し、健康づくりや仲間づくりの場として、生涯学習センターを拠点に多様な学習機会の充実に努めてまいります。

また、個人の知識や技術をボランティア活動で活かすための「人材登録制度」やサークル活動を支援する「いわなびサロン」など、学習成果を生かせる場の提供にも努め、社会参加を促す環境づくりに取り組んでまいります。

2 芸術・文化活動の推進

2点目は、「芸術・文化活動の推進」についてです。

芸術文化は、豊かな創造性や感受性を育み、人々の生活に潤いと活力をもたらします。

芸術文化の鑑賞機会や活動機会の充実のため、岩見沢文化連盟や北海道教育大学などと連携し、「市民の文化祭」をはじめ、まなみーるや絵画ホールなどでの各種事業の実施に取り組むとともに、文化団体の活動や全国大会出場者に対する支援、文化施設の安全で快適な環境づくりに取り組んでまいります。

また、郷土の歴史や文化を後の世代に継承していくため、指定文化財の

指定に向けた活動や各種郷土芸能を次世代に守り伝える取組みを進めてまいります。

3 スポーツ活動の推進

3点目は、「スポーツ活動の推進」についてです。

生涯を通じて誰もがスポーツに親しみ、充実した活動ができるよう、北海道教育大学などと連携した子ども向けのスポーツ教室や、市民の健康保持・増進に向けた事業の実施など、世代を問わず体を動かす機会の充実に努めてまいります。

また、各種スポーツ団体の活動や全国大会出場者、アスリートとして将来を期待される子どもたちを支援するとともに、スポーツ施設の安全で快適な環境づくりに取り組んでまいります。

さらに、障がいのある人もそうでない人も共に楽しめる「アダプテッド・スポーツ」など、多様なスポーツの普及・促進を図ってまいります。

4 図書館運営の充実

4点目は、「図書館運営の充実」についてです。

図書館は、地域の知の拠点として図書、記録、資料などの収集・整備に努め、司書の専門性を活かした様々な情報の発信と、図書館を利用される方々がより多くの知識を得ることができる環境整備を進めるとともに、市内各所で予約本の受取や返却をすることができるよう、引き続き「地域拠点サービス」を提供してまいります。

また、「第2期いわみざわの子ども読書プラン」に基づき、ブックスタート事業のほか、学校図書館や児童館・放課後児童クラブ等との連携など、幼児期から子どもたちが本に触れる機会の充実に努めるとともに、社会教育施設や市民団体との連携・協力により幅広い世代の読書活動を推進してまいります。

IV 子ども・子育て支援の推進

次に、「子ども・子育て支援の推進」についてです。

すべての子どもと保護者が孤立することなく、将来に希望を持てるよ

う「誰もが笑顔で子育てできるまちづくり」を推進してまいります。

1 子ども・子育て支援の充実

1点目は、「子ども・子育て支援の充実」についてです。

「第2期岩見沢市子ども・子育てプラン」に基づき、子どもたちがどのような家庭環境、経済状況にあっても、誰一人取り残されることなく、将来に希望をもって成長できることを目指して、地域や保護者のニーズに応え、子どもたちが健やかに成長するための事業に取り組んでまいります。

こども・子育てひろば「えみふる」では、あそびの広場を含めた各部門が連携して支援に努めるとともに、ファミリー・サポート・センターでは、子育ての相互援助活動を実施いたします。さらに、本来、大人が担うと想定される家事や家族の世話などを日常的に行う「ヤングケアラー」については、周知・啓発に努めながら、特別育児支援ヘルパーを活用するなど、支援に取り組んでまいります。

保育と幼児教育については、子育て家庭がそれぞれに合った保育や幼児教育を選ぶことができるよう情報提供を行うとともに、一時預かりや病児保育事業など多様な保育を実施いたします。また、3歳未満の保育料については、基準額表の減額細分化や第2子、第3子保育料の無償化に引き続き取り組み、「このまちで、子どもを産み、育てたい」という思いに応える環境づくりに取り組んでまいります。

2 子育て相談体制の充実

2点目は、「子育て相談体制の充実」についてです。

子育て総合支援センターでは、電話や家族健康手帳アプリなどを活用し、気軽に利用できる環境を整えるとともに、伴走型の相談支援と一体的に実施する「出産・子育て応援ギフト」をきっかけに相談や支援が受けられるよう、「えみふる」の各部門及び児童相談所等関係機関が連携・協力して、子育て相談体制の充実を図ります。また、支援を必要とする家庭や子どもに最も身近な支援者である保育所、幼稚園、学校等と定期的に情報を共有し、子どもの安全を見守ってまいります。

そのほか、子どもの成長記録を保存し、必要に応じて支援に役立てることができるよう、1歳6か月健診を受診するすべての子どもに「えみふるファイル」を配布するとともに、各機関と協力し、その活用を促す取組みを進め、子どもの成長を支えてまいります。

3 放課後活動の充実

3点目は、「放課後活動の充実」についてです。

子どもたちに遊びと生活の場を提供する児童館を運営し、留守家庭の小学生が利用する放課後児童クラブとともに、異年齢交流や地域の特色を取り入れた体験活動に取り組みます。また、引き続き、地域と連携して学校休業日の受入時間を朝7時30分に早め、仕事と子育ての両立を支援します。メープル小学校においては、地域スポーツクラブと連携した放課後教室の充実を図るなど、子どもの成長を支え、子育てを支援してまいります。

4 青少年健全育成の充実

4点目は、「青少年健全育成の充実」についてです。

岩見沢市地域子ども会育成会連合会などの関係団体と連携し、さまざまな体験活動に取り組むほか、地域ぐるみで子どもを育てる活動に取り組む団体等を支援することを通じて、子どもたちが地域の大人とふれあう機会をつくります。また、青少年センターを中心に、学校・家庭・地域と連携しながら、街頭補導や有害環境の改善に努めてまいります。

さらに、低年齢化する携帯電話やスマートフォン利用に対応し、学校においては情報モラル教育やメディアリテラシーの向上に取り組み、家庭に対しては青少年センターによる啓発資料や出前講座等の普及啓蒙により、親子が共に考え、正しく行動できるよう、支援してまいります。

V おわりに

「よい地域」には「よい学校」があり、「よい学校」をつくることで、「よい地域」が形成されます。

したがって、「地域とともに歩む学校づくり」を進めることにより、「学

校を核とした地域づくり」を行い、社会総がかりでの教育を実現するとともに、地域の活性化を目指してまいります。

これからの社会の変化に対応できる人材を育成し、持続可能なまちづくりを進めるためにも、「岩見沢で子育てがしたい」「岩見沢で学びたい」「岩見沢に住みたい」と誰もが思える、新たな時代を見据えた人づくり、まちづくりに貢献する教育施策の推進に努めてまいります。

議員の皆さま、市民の皆さまのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。